

# 店舗情報を継続発信

## 南三陸てん店まっぶが入賞

日本観光振興協会などが主催する「ジャパン・ツーリズム・アワード」で、南三陸町地域観光復興協議会（阿部隆二郎代表）が続けている「南三陸てん店まっぶ」の取り組みが、入賞に選ばれた。町内に点在する店舗情報を一覧にまとめ、2013年から継続して情報発信していることが評価された。

ジャパン・ツーリズム・アワードは、観光分野で先進的、持続的な取り組みを表彰しており、4回目。昨年は南三陸ホテル観光が行っている語り部パスの取り組みが大賞を受賞している。

今年「国内・訪日」「海外」の領域ごとにビジネス、地域、メディアの3部門を設け、過去最高の261件の応募があった。このうち、大賞、優秀賞をはじめ、63件が受賞した。

国内・訪日領域の地域部門で入賞に選ばれた「南三陸てん店まっぶ」は、東日本大震災で被災した町内の店舗情報を集約。仮営業している場所がわかりにくいといった事情をきっかけに考案した。

復興事業などの理由で移転したり、仮設から本再建によって場所が変わったりするたため、マップは毎年更新している。現在は、飲食店や食料品店など約70店舗の情報を掲載。店をたくさん巡ると特典がつくスタンプラリーも行っており、観光だけでなく、町民にも好評だ。

審査サイドからは、震災後の厳しい状況を克服しようと一丸となつて取り組んだことや、観光で求められる持続性がある点などが評価された。表彰式は20日に東京で行われた。阿部代表は「高い評価を受けたことはうれしい。今後もマップを手に多くの人に町内を回遊してもらえよう努めるとともに、人と人との交流のきっかけになるような取り組みとして継続していきたい」と話した。



表彰状を手にする阿部代表

2018年9月29日  
【三陸新報】